

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【上落合小学校】

⑥ 次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	学校全体で見ると市の平均回答率を上回っている教科、領域がほとんどであるが、理科においては正答率が半数を超えない児童が20%以上いる。そのため、知識・技能のさらなる定着を図る。 ・毎時間の授業の中で大切なこと(まとめ)について、学習した言葉を用いて自分なりにまとめを記述することで、知識を確実に身に付けられるようにする。(毎時間) ・スタディサプリやドリルパークや復習用プリント等を活用し、適用問題に繰り返し取り組み機会を増やす。【単元に1度以上、学期にまとめプリント1枚以上】
思考・判断・表現	学校全体で見ると市の平均回答率を上回っている教科、領域がほとんどであるが、理科の「粒子」を柱とする領域、「地球」を柱とする領域においての平均正答率をさらに向上させたい。また、問題を読み取る力、読解力を高め、出題意図を正しく理解し、問題に正対した考えを述べることができる力を高める。 ・読書を推進する。(学校図書館での貸出冊数の制限を緩和する。)(通年) ・物語や説明文の大事なところを落とさず読み取り、短い文章でまとめて記述する時間を設定する。【単元に1度以上】 ・事象やデータ結果から分析したり、考察したりしたことを記述する時間を設定する。【国語、社会、理科において単元に1度以上】 ・過去の全国学力状況調査や市学習状況調査において出題された問題に取り組み時間を確保する等、出題の意図を的確に捉えられるようにしていく。【単元に1度以上実施】

① 今年度の課題と学力向上策		
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「主語、述語、修飾語」 算数「図形」 <指導上の課題> 文章で記述する問題に苦手意識を感じる児童が多い。個人差が大きく、正答率が半数を超えない児童も10%以上いる。	⇒ 毎時間の授業の中で大切なこと(まとめ)について、学習した言葉を用いて自分なりにまとめを記述することで、知識を確実に身に付けられるようにする。【毎時間】 ・スタディサプリやドリルパーク、復習用類似問題「おかわ(Re)」等を活用し、適用問題に繰り返し取り組み機会を増やす。【単元に1度以上、学期にまとめプリント1枚以上】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「話すこと・聞くこと」「書くこと」 算数「基準量・比較量・割合」 <指導上の課題> 問題を読み取る力、出題意図を正しく理解し、問題に正対した考えを述べる力が弱い。	⇒ 読書を推進する。(学校図書館での貸出冊数の制限を緩和する。)(通年) ・物語や説明文の大事なところを落とさず読み取り、短い文章でまとめて記述する時間を設定する。【単元に1度以上】 ・事象やデータ結果から分析したり、考察したりしたことを記述する時間を設定する。【単元に1度以上】 ・過去の全国学力状況調査や市学習状況調査において出題された問題に取り組み時間を確保し、出題の意図を的確に捉えられるようにしていく。【単元に1度以上実施】

⑤ 学力向上策の実施状況	
知識・技能	B 毎時間の授業の中で大切なこと(まとめ)について、学習した言葉を用いて自分なりにまとめを書く活動を積極的に取り入れることで定着させることができた。教科書の適用問題を解くことで基礎・基本の定着を図るとともに、スタディサプリやドリルパーク、復習用類似問題「おかわ(Re)」等を活用することで、学習意欲の向上を図ることができた。
思考・判断・表現	B 週1回、図書館を利用し、図書館司書に読み聞かせをしてもらうことで、想像力や集中力を育成することができた。「本読み合戦」を企画し、クラス対抗で貸出冊数を競うことで本との出会いの機会を増やすだけでなく、視野が広がり、多様な価値観に触れることができた。R7年度さいたま市学習状況調査国語の「読むこと」の領域において、すべての学年で市の平均正答率を2~6%上回ることができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語科、算数科、理科ともに、知識・技能のどの領域においても市全体の平均を上回る結果となった。難しい問題に果敢に取り組み、家庭学習等で繰り返し問題を解いたりすることが結果につながったと考える。 国語の文章や資料を読み取り、意味を正しく捉えたり、目的に応じて、適切な言葉や形式を選ぶ力が身に付いている。算数では、分数の加法の理解や角の性質の問題について正答率が高い。しかし、理科では電磁石の基本的な原理や性質を理解しているが、性質ごとに物質を分けたり、生活の中にある物質やアルミニウムが何かを理解していないところが課題がある。理科では、実物を使った観察・分類活動や、実生活に結びつく問題を解く等の活動を増やしていく必要がある。
思考・判断・表現	国語・算数・理科の「思考・判断・表現」の領域で、市平均を上回る成果が見られた。自分の考えをまとめたり、友達に説明したりする活動が成果につながったと考えられる。 一方で、長文や情報量の多い問題では、重要な情報の整理や資料間のつながりを見つけられる傾向がある。図や表の活用を促進し、情報の取捨選択力を育てる必要がある。算数では、数値の変化に気付く力があるが、根拠をもとに説明する力に課題がある。分数の加法の理由説明など、数直線や図、具体的な操作活動を通じて表現力を高める工夫が求められる。理科では、物質の分類が十分であったため、「電気を通すもの」「電気を通さないもの」の観点で整理する練習が必要である。実数では「観察→分類→問い→表現」の流れを意識した学習を進めていく。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	どの学年においても概ね市の平均回答率を上回り、昨年同様の結果であった。学校以外でも家庭学習等で繰り返し問題に取り組んでいる児童が多いことが結果につながっていると考えられる。しかし、算数科では、領域ごとに比べると「図形」の正答率が低い。図形に用いられる算数的な言葉が、図形のどの部分にあたるのか理解していないことが考えられる。これは、第4学年から学習する「垂直と平行」や「立方体や直方体の展開図」でつまづきを学習調整できていない児童が多いのではないかと考えられる。
思考・判断・表現	どの学年においても概ね市の平均回答率を上回り、昨年同様の結果であった。学習に粘り強く取り組んでいることが結果につながったと考えられる。しかし、国語科「話す・聞く」が他の領域より正答率が低い。これは、順序だてて話をすることや、自分の考えを表現することが苦手な児童が多いことが考えられる。また、算数科では、3年生の「データの活用」の正答率が低かったが、グラフの読み取りの経験が少ないためと考えられる。問題を解くだけでなく、なぜそうなるのかを思考させ、自分の考えをアウトプットする活動を授業で効果的に取り入れていく必要がある。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

③ 中間期報告		
	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B 毎時間の授業の中で大切なこと(まとめ)について、学習した言葉を用いて自分なりにまとめを書く活動を積極的に導入している。 ・スタディサプリやドリルパーク、復習用類似問題「おかわ(Re)」等を活用し、適用問題に繰り返し取り組み機会を多く取り入れている。	・授業の中で大切なことを共有する場面や、復習問題の取り組み方について、よりよい方法を教員間で共有できるようにする。(9、10月)
思考・判断・表現	B 週1回、図書館を利用したり、図書館司書に読み聞かせをしてもらったり、読書の推進に務めている。1学期に「本読み合戦」を企画し、クラス対抗で貸出冊数を競い、児童も本との出会いを楽しみにしていた。	・「ミライシード」を活用することで、過去の全国学力状況調査において出題された問題を解くことができることを紹介したり、市学習状況調査において出題された問題を用意したりし、各学年で取り組めるように準備をする。(11月、12月)